

漁況情報 No.22

平成 18 年 12 月 14 日発行

岩手県水産技術センター 漁業資源部

Tel : 0193-26-7915、Fax : 0193-26-7920、E-mail : CE0012@pref.iwate.jp

* 本報は当センターホームページ (<http://www.pref.iwate.jp/hp5507/>) に掲載しています。

<< トピックス >>

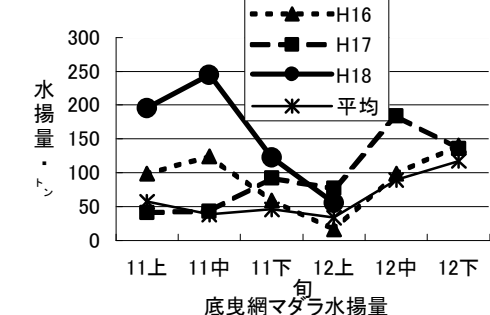
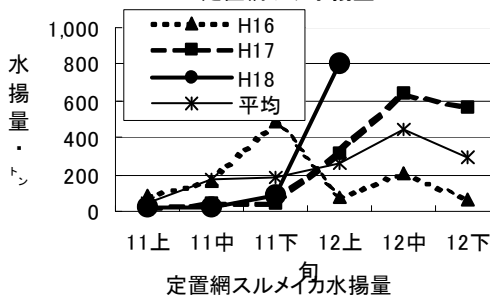
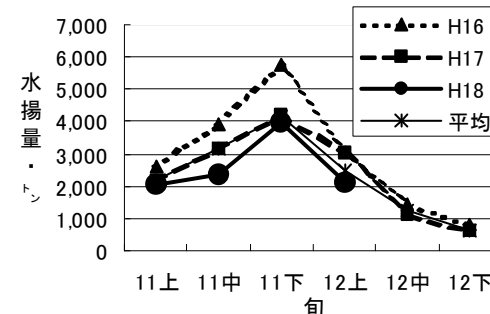
アキサケ(定置網)の旬水揚げは前年を下回りました。
スルメイカ(定置網)の旬水揚げは前年を大きく上回りました。
マダラ(底びき網)の旬水揚げは前年を下回りました。
東北区水産研究所から海況予測が発表されました。

1. 水揚げ状況

(1) アキサケ(定置網)は宮古、釜石を中心に水揚げがあり、12月上旬の水揚げ量は2,089トン(前年の68%)でした。また、12月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は2,473トンで、旬水揚げはその85%でした。年累計は13,901トン(前年の86%)です。

(2) スルメイカ(定置網)は宮古、山田、釜石、大船渡を中心に水揚げがあり、12月上旬の水揚げ量は808トン(前年の2.6倍)でした。また、12月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は262トンで、旬水揚げはその3倍でした。年累計は2,554トン(前年の1.4倍)です。

(3) マダラ(底びき網)は宮古を中心に水揚げがあり、12月上旬の水揚げ量は55トン(前年の72%)でした。また、12月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は34トンで、旬水揚げはその1.6倍でした。年累計は2,862トン(前年の90%)です。



* 水揚げ状況は主要6港(久慈、宮古、山田、大槌、釜石、大船渡)の集計です。

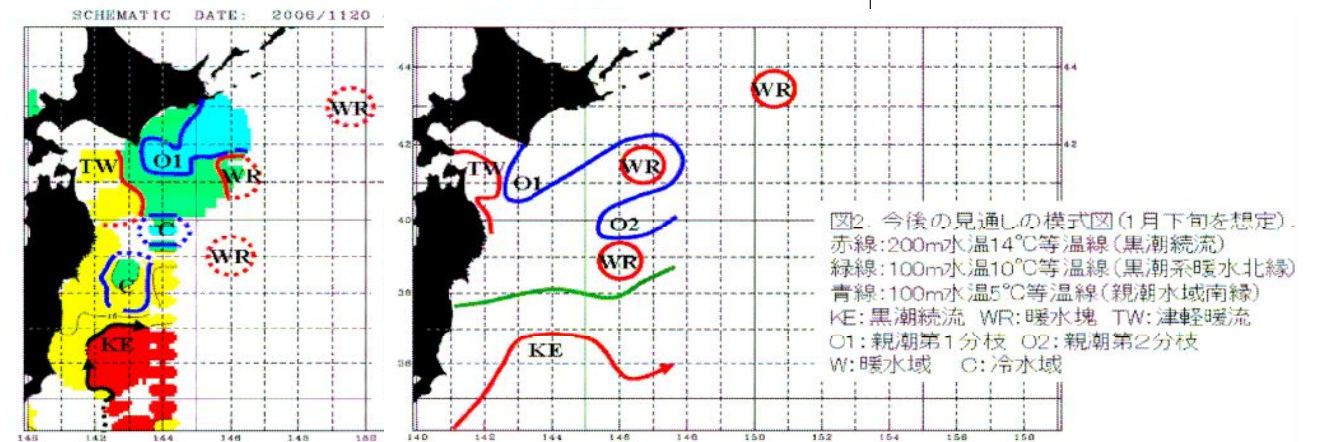
2. 東北区水産研究所発表「平成18年度東北海区海況予測 第4号」

《海況の経過(2006年9月~2006年11月)の特徴》

- 2005年10月に下北半島東方で発生した暖水塊が、2006年9月に色丹島南東沖に達していたが、その後も東方に移動した。2006年9月に下北半島東方で確認された暖水塊は、北東方向に移動した。2006年4月に常磐沖合で発生した暖水塊は、9月以降北東方向に移動した。11月に三陸沖合に新たな暖水塊が確認された。
- 親潮第1分枝の南限は、9月平年並(40°40'N)から、10月に一時的に北偏(41°50'N)したが、11月には平年並(41°20'N)に戻った。
- 親潮第2分枝の南限は、9~10月は平年並(39°40'N~39°40'N以南)であったが、11月は確認できなかった。
- 津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、9月~10月はかなり強勢であったが、11月は平年並となった。
- 東北海区の表面水温は、9月および11月は平年より高め、10月は平年より低めであった。

《今後の見通し(2006年12月~2007年2月)》

- 黒潮系暖水の北限位置は、近海で平年並で推移する。
- 択捉島南東沖合と釧路南東沖合の暖水塊は北東に移動する。三陸沖合の暖水塊は持続する。
- 親潮第1分枝の張り出しは、平年並(39°N以北)で推移する。
- 親潮第2分枝の張り出しは、平年並(39°N以北)で推移する。
- 津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、やや強勢~やや弱勢(143°20'E付近まで)で推移する。



現況(11月下旬~12月上旬)

今後の見通し(1月下旬を)想定

この情報は東北区水産研究所混合域海洋環境部ホームページでも公開しています。

URLはこちら <http://www.myg.affrc.go.jp/kaiyo/kaiyoubu/predict/index-j.html>

「フィッシャリイ・ネットいわて」(<http://www2.suigi.pref.iwate.jp/>)で、日別・市場別・魚種別の水揚げ状況、定地水温などを検索できますので、こちらもご活用下さい。